安全データシート（SDS）

１．化学品及び会社情報

化学品の名称　　：配管洗浄Ｕ　Ｂ剤
化学品の推奨用途：洗浄剤
整理番号　　：ＳＤＳ　８２－１９－２
供給者の会社名称、住所及び電話番号
供給者の会社名称：クリアライト工業株式会社
住所：岐阜県関市山田1539-3
電話番号：0575-27-3051
FAX 番号：0575-27-3053
担当部署：技術部
緊急連絡先電話番号：0575-27-3051
作成年月日　：２０１０年　７月　１日　　改訂年月日：２０２５年　４月　１日

２．危険有害性の要約

＜GHS 分類＞

物理化学的危険性

酸化性固体	：	区分３

健康に対する有害性

皮膚腐食性／刺激性	：	区分 1C
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	区分１

環境に対する有害性

水生環境有害性　短期（急性）	：	区分３

（注）記載なきGHS分類区分：区分に該当しない／分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語：危険

危険有害性情報

火災助長のおそれ：酸化性物質
飲み込むと有害のおそれ
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

衣類、可燃物などから遠ざけること。

可燃物と混合を回避するために予防策をとること。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水（又はシャワー）で洗うこと。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分及び含有量

成分名	含有量（wt%）	CAS　No.	化審法 No.
炭酸ナトリウム過酸化水素付加物	80～90%	15630-89-4	(1)-143※
カルボン酸塩	1~10%	非公開	非公開
有機窒素系化合物	1%未満	非公開	非公開

※過炭酸ナトリウム（通称名）、及び過炭酸ナトリウム－過酸化の名称で収載されている。

４．応急措置

吸入した場合　：　直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、なお気分の悪い場合は速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合　：　直ちに多量の水で１５分以上洗い流す。痛みのある場合は医師の手当てを受ける。（衣服にかかってしみこんだ場合も同様の処置を行う）

眼に入った場合　：　直ちに流水で１５分以上まぶたの裏まで洗眼し、すみやかに医師の手当てを受ける。コンタクトレンズ使用の場合は、固着していない限り取り

外し、洗眼する。

飲み込んだ場合　：　水で口の中を洗浄する。すみやかに医師の手当てを受ける。 意識が無い場合、口から何も与えてはいけない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	：	本品は不燃性であるが、他の物質の燃焼を助長する。 大量の水が有効である。
使ってはならない消火剤	：	粉末、二酸化炭素、泡消火剤は無効
特有の危険有害性	：	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	：	本品は不燃性であるが、火災で熱分解すると酸素ガスを放出して火災を助長するおそれがある。 本品が火災に巻き込まれると、燃焼を加速したり、爆発的に分解するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
消火を行う者の保護	：	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置	：	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	：	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
封じ込め，浄化の方法及び機材	：	危険でなければ漏れを止める。
回収，中和などの浄化の方法及び機材	：	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 おがくず他は可燃性物質に吸収さてはならない。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い
- 本品の飛散、漏洩等の防止措置をとる。
- 炎や火花あるいは高温体との接触を避け、使用場所でみだりに火気を使用しない。
- 粉塵飛散防止措置をとる。
- 使用場所の付近には可燃物、引火物を置かない。
- 一旦容器から出したものを元の容器に戻さない。
- 配管により取扱う場合には、密閉状態としてはならない。
- 取扱後は身体・手・口・眼・顔をよく洗う。作業着に付着した場合は着替える。
- 吸い込んだり、眼・皮膚・衣服等に触れないよう、保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴等を着用する。
- 容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、引きずったりしないこと。

保管
- 容器は直射日光を避け、冷暗所に保管する。
- 水ぬれや異物混合しないように保管する。
- 密封容器には保管にしない。
- 可燃物や分解を促進する物質と混合貯蔵してはならない。

・分解を促進する材質（鉄、銅、アルミニウム等の金属など）を使用してはならない。

容器　　・ポリエチレン製袋、ダンボール（水濡れ厳禁）

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度　：　設定されていない

許容濃度　：　・ACGIH（TLV）　：設定されていない
・日本産業衛生学会　：設定されていない

設備対策　：　取り扱いについては、局所排気、全体換気装置を用いて作業環境よくする。
取扱い場所には安全シャワー、洗顔設備を設置し、その位置を明示する。

保護具　：　保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴

９．物理的及び化学的性質

物理状態	：	粉末
色	：	白色
臭い	：	特異臭
融点／凝固点	：	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	：	データなし
可燃性	：	不燃性（但し、加熱等で分解すると酸素を発生し可燃物の燃焼を助長する）
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	：	データなし
引火点	：	データなし
自然発火点	：	データなし
分解温度	：	約120℃
ｐＨ	：	10.1～11.1（1%水溶液）
動粘性率	：	データなし
溶解度	：	14g／100ｇ水（20℃）
n-オクタノール／水分配係数（log値）	：	データなし
蒸気圧	：	データなし
密度及び／又は相対密度	：	0.68～0.82
相対ガス密度	：	データなし
粒子特性	：	データなし

１０．安定性及び反応性

反応性	：	情報なし
化学的安定性	：	通常の取扱条件において安定である。 水溶液は放置するだけで炭酸ナトリウムと過酸化水素とに分解する。
危険有害反応可能性	：	アルミニウム、亜鉛、銅を腐食する。 強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と激しく反応することがある。 本品自体は不燃性であるが、火災で熱分解すると酸素ガスを放出して火災を助長するおそれがある。
避けるべき条件	：	高熱、日光
混載危険物質	：	可燃性物質、金属粉末、還元性物質

危険有害な分解生成物　　：　酸素、過酸化水素、オゾンガス

１１．有害性情報

急性毒性	：	経口　ラット LD50＝ 2400 mg/kg　区分に該当しない。 経皮　データ不足のため分類できない。 吸入：気体　GHSの定義における液体である。区分に該当しない。 吸入：蒸気　データ不足のため分類できない。 吸入：粉じん、ミスト　データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性	：	本品の水溶液はpH10～11の強塩基性であることから、区分１Ｃとした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	本品の水溶液は強塩基性であることから、区分１とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	：	呼吸器感作性の情報は得られていない。 皮膚感作性については中央労働災害防止協会、日本バイオアッセイ研究センター（依頼試験結果）によると、モルモット皮膚感作性試験：感作性なし。
生殖細胞変異原性	：	データなし
発がん性	：	情報は得られていない。 IARC　：設定されていない NTP　：設定されていない EU　：設定されていない NTP　：設定されていない
生殖毒性	：	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：	データなし
誤えん有害性	：	データなし

１２．環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性　短期（急性）	：	魚毒性(ファットヘッドミノー) LC50＝70.7mg/L/96H 区分3とした。
水生環境有害性　長期（慢性）	：	データなし
残留性・分解性	：	データなし
生体蓄積性	：	データなし
土壌中の移動性	：	データなし
オゾン層への有害性	：	データなし

１３．廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

・大量の水で十分に希釈し、過酸化水素分を亜硫酸ナトリウム等で分解し（過酸化水素はJISのCOD値として検出される）酸で中和した後廃棄する。
・多量の製品あるいは高濃度水溶液が排水処理施設や河川等に流入すると汚濁中の微生物あるいは河川生物等に対して悪影響を及ぼす原因となるため、事前に過酸化水素を分解した後、酸で中和し、

排水の排水基準(pH、COD他)に適合していることを確認のうえ廃棄する。

汚染容器及び包装

・容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

１４．輸送上の注意

国際規制

国連番号	：	UN3378
品名	：	SODIUM CARBONATE PEROXYHYDRATE
国連分類	：	5.1（酸化性物質）
容器等級	：	Ⅲ
海洋汚染物質	：	非該当
MARPOL 73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	：	非該当

国内規制

海上規制情報	：	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	：	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	：	消防法の規定に従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	：	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

１５．適用法令

労働安全衛生法	：	非該当
化審法	：	優先評価化学物質 No.89「過酸化水素」(官報公示日：2012/03/22) 評価対象；生態影響
化学物質排出把握管理促進法（ＰＲＴＲ法）	：	非該当
毒物及び劇物取締法	：	非該当
消防法	：	危険物第１類第三種酸化性固体、指定数量1000kg、危険等級Ⅲ
船舶安全法	：	酸化性物質類・酸化性物質（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法	：	酸化性物質類･酸化性物質(施行規則第１９４条危険物告示別表第１)
輸出貿易管理令	：	該当する（キャッチオール規制対象品）
水質汚濁防止法	：	生活環境項目（施行令第三条第一項）「水素イオン濃度」 〔排水基準〕 ・海域以外の公共用水域に排出されるもの5.8以上8.6以下 ・海域に排出されるもの5.0以上9.0以下
輸出貿易管理令	：	キャッチオール規制（別表第1の16項）第28類 無機化学品 HSコード：2836.99 ・輸出統計番号（2021年版）：2836.99-000「炭酸塩、ペルオキソ炭酸塩（過炭酸塩）及び商慣行上炭酸アンモニウムとして取引する物品でカルバミン酸アンモニウムを含有するものーその他のもの:その他のもの」

・輸入統計番号（2021年9月19日版）：2836.99-000「炭酸塩、ペルオキソ炭酸塩（過炭酸塩）及び商慣行上炭酸アンモニウムとして取引する物品でカルバミン酸アンモニウムを含有するものーその他のもの：その他のもの」

１６．その他の情報

引用文献

・化学物質総合情報提供システム（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）
・JIS Z 7252：2019
・JIS Z 7253：2019
・（財）民生科学協会（依頼試験結果）
・（財）日本食品分析センター（依頼試験結果）
・食品衛生学雑誌　vol.27、No.5　p553　　(1986)
・中央労働災害防止協会、労働衛生サービスセンター（依頼試験結果）
・Threshold limit values for chemical substances and physical agents and biological expousure indices ACGIH(2005)
・中央労働災害防止協会、日本バイオアッセイ研究センター（依頼試験結果）1998
・IARC Monographs on the Evaluation of Carcinogenic Risk of Chemicals to Humans. Vol.1-92

責任の限定

本記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用してください。ここに記載した GHS 分類区分の算出根拠は、現時点における日本公表データです。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。